



ゆづりは

堺市立図書館だより

第19巻 第3号 (通巻72号)

発行日 令和6年12月10日

編集・発行 堺市立中央図書館

〒590-0801 堺市堺区大仙中町18-1

電話 072 (244) 3811

FAX 072 (244) 3321

https://web.d-library.jp/SKI01/g0102/

libcontents/search/?gid=1025



▲電子版

新移動図書館車の名称が「あおぞら号」に決定しました！

移動図書館車の買い替えを行うにあたり、より多くの方に末永く利用して頂けるよう、新しい移動図書館車の名称を募集しました。

令和6年7月16日から8月30日まで募集し、267点の応募がありました。応募の中から、堺市立図書館協議会委員及び図書館職員による投票などを経た選考の結果、「あおぞら号」に決まりました。



＜現在運行中のくすのき号＞

＜名称の意味・由来＞

「あおぞら号」には4人の方から応募がありました。

- ・ 青空のようにさわやかに
- ・ 青い空に留まって、本好きの人の輪が周りに出来れば良いですね！
- ・ 青空の下でのびのびと本が読めたらいいなと思ってこの名前をつけました。
- ・ 子どもたちが赤ちゃんの頃から利用している移動図書館にはたくさん思い出があります。読み聞かせしていた子どもたちも小学生になり、今は一緒に興味のある本を選んで楽しんでいます。あおぞらの下、他の利用者さんとお喋りしたり、スタッフさんとの些細なやりとりも2週間に1回の楽しみになっています。

以上の意味・由来を踏まえ、青空の下で様々な年代の方々の読書の輪が広がる移動図書館になるようにとの願いを込め「あおぞら号」に決定しました。「あおぞら号」は令和7年春以降に運行開始予定です。

運行開始をお楽しみに！



＜緑化祭での特別巡回の様子＞

現在運行中の「くすのき号」は、10月27日に大仙公園で開催された堺市緑化祭への特別巡回も行いました。くすのき号を見られるのはあと数ヶ月となります。くすのき号は市内26か所を定期的に巡回していますので、この機会にぜひご利用ください。

(中央図書館 サービス係担当)

目次

- ・ 新移動図書館車の名称が「あおぞら号」に決定しました！ …1
- ・ この本で解決！
「自分の町の歴史を調べるには」 …2
- ・ 資料配送サービスを開始しました …2
- ・ 中央図書館で郷土資料展「堺市史ができるまで 編纂開始100年記念」と記念講演会「100年間の堺市史編纂事業が遺したもの」を開催しました …3
- ・ 司書のイチ押し
『倚りかからず』
『詩のこころを読む』 …4
- ・ 堺市立図書館電話番号一覧 …4

ゆづりは

とは…

中央図書館の正面玄関前に、堺生まれの詩人河井醉茗氏の歌碑があります。

年ごとに
ゆづりゆづりて
譲り葉の
ゆづりあとに
また新しく



この歌にちなみ、年月を経て、世代を越えても、次々に新しい情報をお伝えできるように、堺市立図書館だより「ゆづりは」と名づけました。

バックナンバーは

こちらから▶





自分の町の歴史を調べるには



図書館に寄せられた様々な質問と回答を紹介します

Q 自分の住んでいる町のことを調べるためには、どうしたらいいですか？

A 自分の住んでいる町のことを調べるために来館される方は多くいらっしゃいます。ただ、大阪や堺市の歴史を扱った本の中には自分の町についての記述がないことも多々あります。そんな時に役立つのは、学校が創立何十周年を記念して発行する記念誌です。

例えば西区を例にとると次のような資料が見つかります。『鳳百年史』は鳳小学校創立 100 年を迎えるにあたり編集されたものです。学制発布による学校の近代化の中、鳳ではどのような教育がなされていたのかという学校の歴史に加えて、鳳地区のそれぞれの村の概要や古代からはじまる町の歴史についても詳細に記されています。『福泉中学校創設三十周年記念誌』の中には「信仰とロマンの里 福泉史跡散歩」と称して、山田温泉、太平寺といった福泉近辺の史跡を寺院を中心に写真付きで紹介されています。

全市的に調べられるのは『校区の史跡だ！』全 3 巻です。この本では元堺市立小学校の教員が、市内の史跡を小学校区別に紹介しています。カラー写真付きで史跡の場所を記した地図もあります。

他にも町の歴史を知る資料として、西区の場合『鳳地車祭の歴史』があります。だんじりの歴史年表や、地車の部材名の場所とその読みが図解で載っています。

余談ですが、先日鳳南町地域会館に掲示されていた『旧長承寺御鎮座の氏神様』について」という大鳥神社が作成された看板のデータをいただき、地域資料として登録するということがありました。町の歴史を記した資料は、このように地域資料として登録しています。作成された際に図書館にお知らせいただければ、大切に保存し、また町の歴史を知る地域資料として次世代に継承します。

図書館で地域資料として収集している学校の記念誌は、各区域館を中心に、300 点ほど所蔵しています。一部を除き、貸出可能な資料もあります。自分の住んでいる町のことを調べる際には、ぜひご活用ください。（西図書館 レファレンス担当）

【参考文献】

- 『鳳百年史』 創立百周年記念誌編集委員会／編 創立百周年記念事業委員会 1985
- 『福泉中学校創設三十周年記念誌』 福泉中学校創設三十周年記念誌編集委員会／編 堺市立福泉中学校 1977
- 『校区の史跡だ！』（全 3 巻）土肥俊夫／著 土肥俊夫
- 『鳳地車祭の歴史』 辻中勇／著 辻中勇 2008
- 『旧長承寺御鎮座の氏神様』について』 大鳥大社 2024

資料配送サービスを開始しました

令和 6 年 12 月より図書館への来館が難しい方への資料配送サービスを開始しました。

- 対象の方は、ご自宅へ郵送で図書館資料の貸出ができます。
- 利用に際しては、堺市立図書館の貸出カードの作成が必要です。
- 申込方法など、詳しくは HP からご確認ください。

（中央図書館 サービス係担当）

障害等の理由で来館が難しい方

＜対象者＞

- ・ 堺市内在住
- ・ 身体障害者手帳
精神障害者保健福祉手帳 1 ～ 2 級
療育手帳 A 級

無料配送
サービス



上記以外の方で来館が難しい方

＜対象者＞

- ・ 堺市内在住・在学・在勤

有料配送
サービス



中央図書館で郷土資料展と記念講演会を開催しました

郷土資料展「堺市史ができるまで 編纂開始 100 年記念」

令和6年は、大正13年に『堺市史』の編纂が始まって100年目にあたります。これを記念し、令和6年11月2日(土)から24日(日)、中央図書館1階ロビーにて郷土資料展「堺市史ができるまで 編纂開始 100 年記念」を開催しました。展示では中央図書館が所蔵する、市史編纂部の収集史料を中心に紹介しました。



『堺大観』関連資料の展示

展示ではまずはじめに、『堺史』関係史料を展示しました。『堺史』は『堺市史』以前に企画されていた堺の歴史書で、事業は頓挫したものの遺された史料がのちの『堺市史』編纂に役立てられました。特筆すべき史料としては、『堺史料類纂』と『堺大観』があります。

『堺史料類纂』は編纂係が調査結果や各種資料からの抜き書きをまとめた史料集です。『堺大観』は、編纂係が依頼されて作成した堺の地誌で、明治36年の第5回内国勧業博覧会に合わせて企画されたものです。70枚もの写真が貼りこめられていることが特徴です。

なかほどでは『堺市史』編纂の過程で収集された史料を展示しました。収集された史料には、原史料で入手されたものと、複製で入手されたものの2種類があります。

原史料で入手された史料として、絵図や筆耕資料、古文書を展示し、複製で入手された史料として市史編纂部による『堺市史史料』や『堺市史史料写真編』を展示しました。

『堺市史史料』は主に文献を書き写したもので、冊子体に

まとめられた史料集です。『堺市史史料写真編』は史料や風景、人物などを撮影した写真群で、計775枚に上ります。

最後に出版された『堺市史』を展示しました。『堺市史』が出版されたのは昭和4年～6年にかけてですが、その後、昭和41年、51年にも復刻版が出版されました。すべて中央図書館で所蔵しています。それぞれ装幀が異なっていますので、ご来館の際にはぜひ見比べてみてください。



『堺市史』関連資料の展示

記念講演会「100 年前の堺市史編纂事業が遺したもの」

11月24日(日)には、中央図書館1階集会室で記念講演会「100 年前の堺市史編纂事業が遺したもの」を開催しました。

講師は奈良大学文学部文化財学科教授の竹田芳則氏にお願いしました。竹田氏は元当館職員であり、「堺市立中央図書館所蔵「堺市史史料」等について」「戦時期の堺市立図書館：田島清館長の活動を中心に」等の論文を執筆されています。

講演会では、『堺史』から『堺市史』、さらにはのちの『堺市史続編』の編纂の変遷についてお話くださり、また『堺史』頓挫

から『堺市史』編纂開始までの間の堺市の歴史研究について、従来考えられていたよりも空白が少ないといったこともご指摘くださいました。参加者のアンケートでは「市史編纂の流れを詳しく知ることができた」「収集された史料の価値を含めて市史の大切さを感じることができた」などの感想をいただき、大好評でした。

(中央図書館 地域資料担当)



記念講演会の様子



司書のイチ押し



『寄りかからず』『詩のこころを読む』

茨木のり子／著

1999 年 10 月 16 日の朝日新聞の朝刊コラム「天声人語」にて、詩集『寄りかからず』が紹介をされたことをきっかけに、一躍有名になった茨木のり子さん。詩集としては異例のベストセラーとなり、他の詩集とともに長年愛され続けています。

「もはや／いかなる権威にも寄りかかりたくはない／
ながく生きて／心底学んだのはそれぐらい／（中略）
／寄りかかるとすれば／それは／椅子の背もたれだけ」
（収録作品“寄りかからず”より抜粋）



『寄りかからず』茨木のり子／著 筑摩書房 1999

73 歳でこの詩集を発刊。父親の「人間というものは、独立独歩で生きていくべきだ。」の言葉に影響をうけたと思われる詩が、“寄りかからず”をはじめいくつもの作品から感じとることができます。25 年連れ添った夫君を亡くした後出来上がったこの詩集には、人生に真摯に向き合い、今後の人生にも背筋を伸ばして生きようとする茨木のり子さんの姿勢を感じることができます。

冷静な眼で自分を、生き方を、生活を、そして人間を見つめる茨木のり子さんの詩には、誰もがこうありたいと憧れを抱き共感せずにはいられない魅力がたくさん詰まっているのです。

その茨木のり子さんが、子どもたちに向けて詩の魅力に

ふれるきっかけをと願いをこめてつくられた本が、『詩のこころを読む』です。

「いい詩には、ひとの心を解き放ってくれる力があります。いい詩はまた、生きとし生けるものへの、いとおしみの感情をやさしく誘いだしてもくれます。どこの国でも詩は、その国のことばの花々です。」という美しい文章からはじまり、「誕生～死」の五章で構成されています。各章



『詩のこころを読む』茨木のり子／著 岩波書店 1980

には谷川俊太郎さんや、吉野弘さん、阪田寛夫さん、高良留美子さん、岸田衿子さん、川崎洋さん、河上肇さん、石垣りんさんなど、錚々たる詩人の詩があげられ、そこに茨木のり子さんがそれらに向き合い感じたこと、考えたこと、それらに彼女独特のユーモアを少し交えた文が加わります。1 冊読了後はまるで長い詩を読み終えたかのような気分になり、紹介された詩人の他の作品も読みたくなります。子どもだけではなく大人が何度読んでも美しい文章に魅了され、楽しむことができる本です。

茨木のり子さんの詩集は本市図書館では子どもの本のコーナーにも置かれており、大きめの文字で漢字にふりがなをふるなど見やすくして作られています。

詩は、出会った時の発見だけでなく、時間（経験）を経て読んだときまた別の発見があり、心を豊かにしてくれます。茨木のり子さんの詩を含め素敵な詩に巡り合えますよう、この本をおすすめします。

(M・M)

堺市立図書館電話番号一覧

中央図書館	244-3811	西図書館	271-2032	人権ふれあいセンター船松人権歴史館	
くすのき号	244-3811	南図書館	294-0123	人権資料・図書室	245-2534
堺市駅前分館	222-0140	梅分館	296-0025	青少年センター図書室	228-6331
中図書館	270-8140	美木多分館	296-2111	図書館カウンター堺東	232-1011
東百舌鳥分館	234-9600	北図書館	258-6850		
東図書館	235-1345	美原図書館	369-1166		
初芝分館	286-0071				



▲図書館 HP

<https://www.city.sakai.lg.jp/kosodate/library/>